

エコアクション21 環境経営レポート

2023年度版
(2023年4月～2024年3月)



2024年6月30日 発行

株式会社 伊禮商会

目 次

1. 会社概要	1
2. 環境経営方針	3
3. 対象範囲（認証・登録範囲）	4
4. 環境経営目標	5
5. 環境経営計画	6
6. 環境経営計画に基づき実施した取組内容	7
（1）エコアクション21実施体制	7
（2）2023年度に実施した環境への取組	8
7. 環境経営目標の実績	10
8. 環境経営計画の取組結果とその評価	11
9. 次年度の計画	12
10. 環境関連法規の遵守状況・違反と訴訟等の有無	14
11. 代表者による全体評価と見直しの結果	15

1. 会社概要

(1) 事業社名及び代表者名

株式会社伊禮商会
代表取締役 伊禮栄

(2) 所在地

沖縄県那覇市曙2丁目2番1号
TEL：098-861-2024 FAX：098-861-2025

(3) 事業規模

設立：1955年11月14日
資本金：600万円
年商：535百万円（2023年度）
事業年度：4月～3月
従業員：15名

(4) 許可

産業廃棄物収集運搬業（許可番号第04703058850号）
古物商許可証（第971010000155号）
廃棄物再生事業者登録証明書（許可番号：第10-4号）

(5) 事業内容

鉄・非鉄金属回収業、廃棄物再生事業

(6) 環境管理責任者及び連絡先

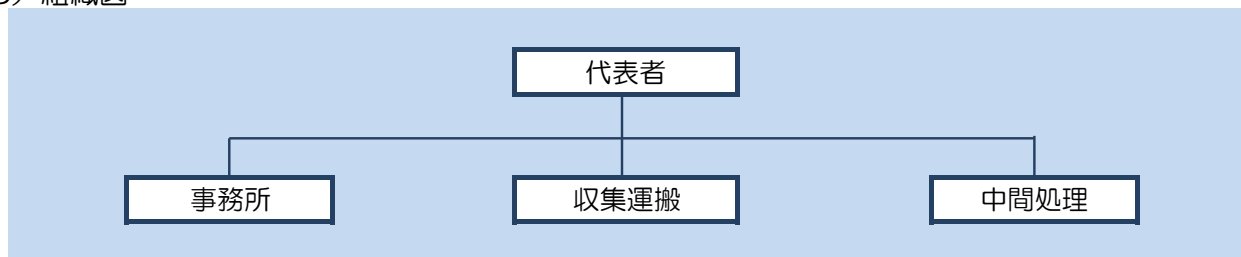
環境管理責任者：比嘉 由華
担当者：比嘉 由華
TEL：098-861-2024 FAX：098-861-2025

(7) 許可番号及び登録書

- 産業廃棄物収集運搬業許可証
- 古物商許可証
- 廃棄物再生事業者登録証明書

{	許可番号：第04703058850号	}
	許可の年月日：2024年3月8日	
	許可の有効年月日：2029年1月28日	
{	許可番号：第971010000155号	}
	交付：1997年8月8日	
	許可番号：第10-4号	
{	許可の年月日：1998年5月12日	}

(8) 組織図



(9) 許可及び登録証明書の内容

- 産業廃棄物収集運搬業

許可番号：第04703058850号

許可の年月日：2024年3月8日

許可の有効年月日：2029年1月28日

事業の範囲：廃油、廃プラスチック類、紙くず、木くず、繊維くず、ゴムくず、金属くず
ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず（これらのうち特別管理産業廃棄物
であるものを除く。積替え保管を含まない。）

- 廃棄物再生事業者登録証明書

許可番号：第10-4号

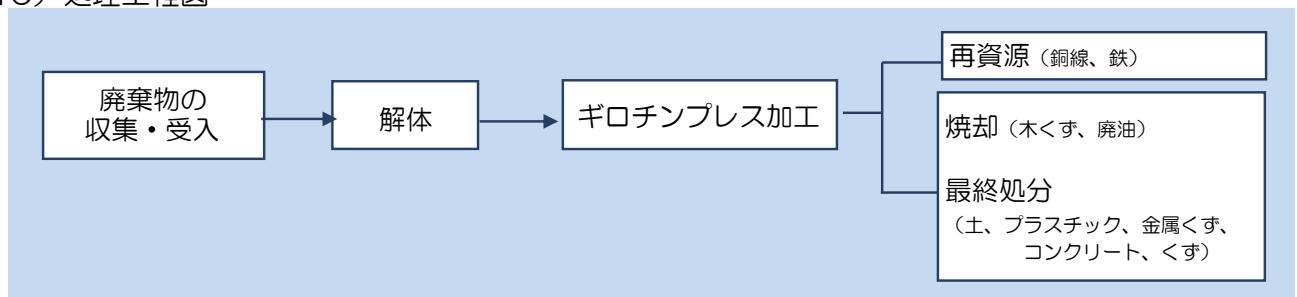
許可の年月日：1998年5月12日

廃棄物の種類：鉄屑、非鉄屑

取扱量：500 t / 月

再生方法：搬入の後、鉄、銅、アルミに選別し出荷する。なお、鉄はギロチンプレス
後、銅はナゲットプランで加工後に出荷する。

(10) 処理工程図



(11) 事業計画の概要

鉄・非鉄金属を分別回収し、リサイクル業者に販売することにより循環型社会の構築に
寄与する。

(12) 施設等の状況

・ プレス機	1台	・ 3 tトラック	1台
・ 収集運搬車両	4台	・ 4 tトラック	1台
・ 重機類	2台	・ 10 tトラック	2台
・ ナゲットプラント	2台		

(13) 受託した廃棄物の処理量（2023年度）

受託した鉄・非鉄金属の処理量	収集運搬量	t	2,565
	中間処理量	t	2,895
	うち再資源化等量	t	2,757
中間処理後の産業廃棄物	単純焼却量	t	1
	最終処分量	t	138

2.環境経営方針

- 当社では、企業としての社会的責任を踏まえて、2011年からエコアクション21の認証を取得し、以下のような環境経営方針を策定して環境経営に取り組んでいます。

環境経営理念

当社は、スクラップ回収業を通じて、自然共生社会の育成と地域環境の保全に資するため、廃棄物の適正処理とリサイクルを推進し、全社員一丸となって環境保全活動に取り組めます。

行動指針

当社は、持続可能な社会の実現を図るため、次の行動指針を定めます。

1. 環境活動に取り組むことにより、環境負荷低減に努めます。
 - ① CO₂排出量の削減に取り組めます。
 - ② 水使用量の削減に取り組めます。
 - ③ 廃棄物の削減とリサイクルに取り組めます。
 - ④ グリーン購入を推進します。
2. 環境関連法規を遵守し、全従業員に周知します。
3. 環境経営レポートを作成し、要求に応じて配布・公表します。
4. 環境経営の継続的改善に努めます。

制定日：2010年2月10日

改定日：2022年1月15日

株式会社伊禮商会
代表取締役 伊禮栄

3. 対象範囲（認証・登録範囲）

（1）認証・登録事業者

- ・株式会社 伊禮商会

（2）対象事業所

- ・本社

（3）対象活動

- ・鉄・非鉄金属回収業、廃棄物再生事業

当社の取扱い品目

非鉄金属

光特号銅線



鈴引線



銅パイプ



並銅



湯沸器（赤釜）



湯沸器（白釜）



被覆銅線



砲金



真鍮



アルミ



ステンレス



その他

その他、銅や非鉄金属を取り扱っております。
御気軽にお問い合わせください。

鉄鋼

H型鋼



異形棒鋼



軽量鉄骨材



4. 環境経営目標

- 2023年度の環境経営目標は、当社の事業活動を踏まえて、直近の2021年度実績を基準年として2023年度～2026年度までの中長期目標として、以下の5項目9目標の数値目標を設定しました。
- 主要な環境負荷である二酸化炭素排出量については、2023年度は基準年から1%削減を、その後も毎年1%ずつ削減して、2026年度までに4%削減を目指します。
- 事業活動で取り組む本業目標として「受託廃棄物のリサイクル率向上」を掲げ、全社をあげて取り組んで環境経営を推進していきます。

年度：4月～翌年3月

環境経営目標	単 位	基準年	中長期目標			
		2021年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度
1.二酸化炭素排出量の削減	kg-CO ₂	130,024	127,424 (1%削減)	126,123 (2%削減)	124,823 (3%削減)	123,523 (4%削減)
	kg-CO ₂ /百万円 (売上高当たり)	258	253 (1%削減)	250 (2%削減)	248 (3%削減)	245 (4%削減)
	(1) 電気使用量の削減	97,096	95,154 (1%削減)	94,183 (2%削減)	93,212 (3%削減)	92,241 (4%削減)
	(2) ガソリン使用量の削減	433	424 (1%削減)	420 (2%削減)	415 (3%削減)	411 (4%削減)
	(3) 軽油使用量の削減	23,438	22,969 (1%削減)	22,735 (2%削減)	22,500 (3%削減)	22,266 (4%削減)
2.水使用量の削減	m ³ /人 (従業員1人当たり)	39.8	39.0 (1%削減)	38.6 (2%削減)	38.2 (3%削減)	37.8 (4%削減)
3.受託廃棄物のリサイクル率向上	% (リサイクル率)	95	95以上	95以上	95以上	95以上
4. 産業廃棄物排出量の削減	% (産廃排出率)	4.79	4.70 (1%削減)	4.65 (2%削減)	4.60 (3%削減)	4.55 (4%削減)
5. 事務所ごみ排出量の削減	kg/人 (従業員1人当たり)	50.0	49.0 (1%削減)	48.5 (2%削減)	48.0 (3%削減)	47.5 (4%削減)

備考) ・購入電力の排出係数は、沖縄電力(株)2021年度調整後排出係数0.706kg-CO₂/kWhを使用した。

・ () 内の数値は、基準年(2021年度)の実績値 に対する削減率を示す。

・化学物質は使用していないので、目標から除外した。

(基準年算出方法)

①二酸化炭素排出量目標=二酸化炭素排出量÷売上高

②水使用量の削減=水使用量÷従業員数

③受託廃棄物のリサイクル率向上=(再資源量÷中間処理量)×100

④産業廃棄物排出量の削減=(産業廃棄物排出量÷中間処理量)×100

⑤事務所ごみ排出量目標=事務所ごみ÷従業員数

→130,023kg-CO₂÷504百万円

→557m³÷14人

→(2,742t÷2,880t)×100

→(138t÷2,880t)×100

→700kg÷14人

5.環境経営計画

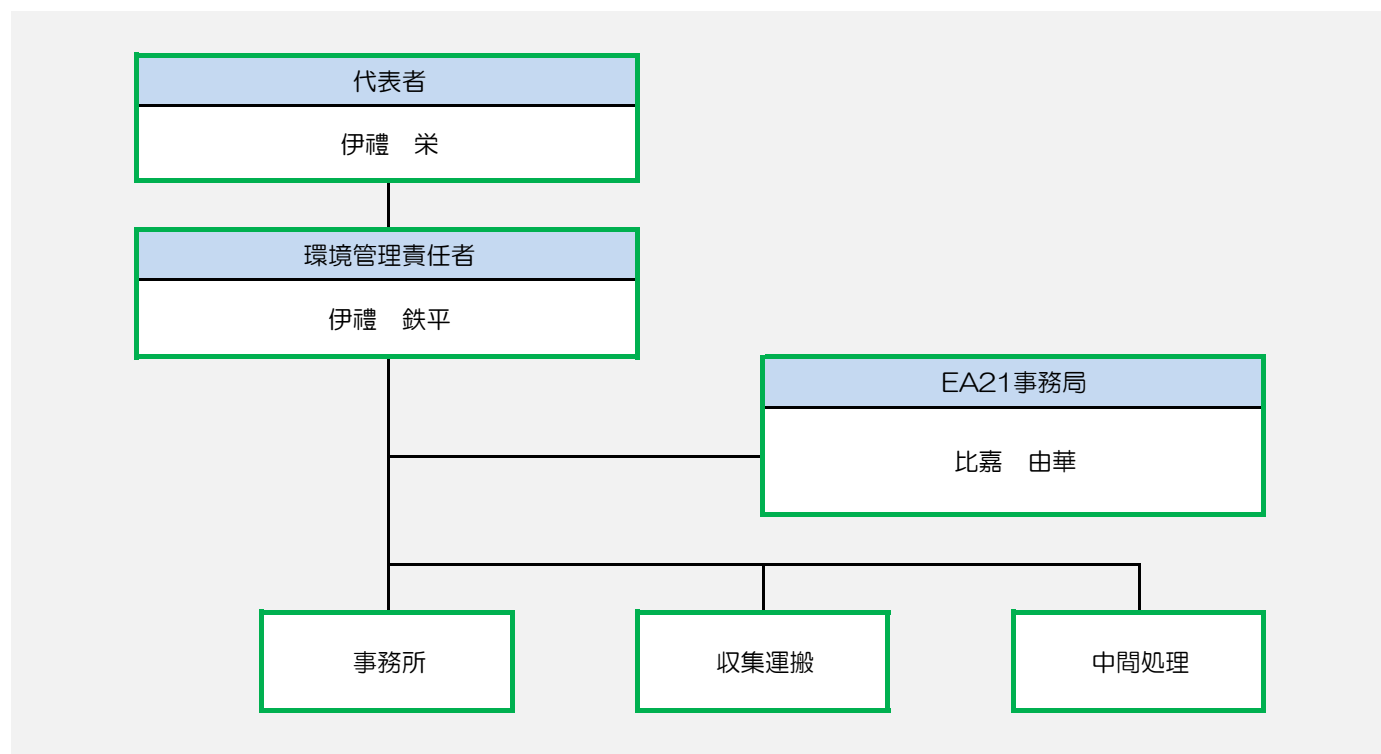
- 環境経営目標を達成するため、以下の具体的な取組（活動項目）を設定して、全従業員で取り組みました。

環境経営目標		具体的な取組（活動項目）	担当者	スケジュール
1.二酸化炭素排出量の削減	電力	①空調は、必要な時間に限定して行う	伊 禮 鉄 平	冷房期：7～9月 暖房期：11～3月
		②使用しない箇所の電気の消灯を徹底する		通年
	ガソリン ・ 軽油	③収集運搬車の急発進、急加速、急ブレーキをしない		通年
		④運搬経路を考慮し、収集運搬の効率を高める		通年
		⑤駐停車中のエンジンの停止を徹底する		通年
		⑥車輜及び重機類の始業前点検を実施する		通年
		2.水使用量の削減		比 嘉 由 華
3.受託廃棄物のリサイクル率向上		砂 川 学	通年	
4. 産業廃棄物排出量の削減			通年	
5. 事務所ごみ排出量の削減		①事務所から排出されるごみの計量を行う	伊 禮 鉄 平	通年
		②両面印刷を徹底する		通年
		③コピー用紙の裏紙使用を徹底する		通年
6. グリーン購入の推進		①グリーンマーク商品をできるだけ購入する	比 嘉 由 華	通年

6. 環境経営計画に基づき実施した取組内容

- ・ 2023年度に当社が実施した環境への取組は、以下のとおりです。
- ・ なお、実施に当たっては、社内にエコアクション21を推進する次のような実施体制を構築して、全従業員が一丸となって取り組みました。

(1) エコアクション21実施体制



◎各役割及び責任と権限

役 割	責 任 ・ 権 限
代表者	・ 環境経営に関する統括責任 ・ EA21の構築・運用・維持に必要な資源の準備 ・ 環境方針の策定及び見直し ・ システム全体の評価と見直し ・ 経営における課題とチャンスを整理し、明確にする
環境管理責任者	・ 環境経営目標及び環境経営計画の作成 ・ 環境経営レポートの作成 ・ 環境関連法規一覧作成と遵守状況の確認 ・ EA21の要求事項に適合したシステムを構築し、維持管理する ・ 文書類の管理
EA21事務局	・ 環境管理責任者の補佐 ・ 環境負荷・環境への取組みの自己チェックの実施 ・ 教育訓練の実施 ・ 緊急事態関連文書類の作成及び管理 ・ 環境コミュニケーション受付・記録
従業員	・ 環境経営計画の実施

(2) 2023年度に実施した環境への取組



・環境経営計画に基づき、以下の取組をSDGs（17のゴール）と紐付けて実施しました。

1. 二酸化炭素排出量の削減



<収集運搬車の使用燃料削減>

①収集運搬車の運転はエコドライブ（急発進、急加速、急ブレーキの禁止、駐車中のエンジンの停止等）に心がけ、運搬経路を考慮して、収集運搬の効率を高めました。

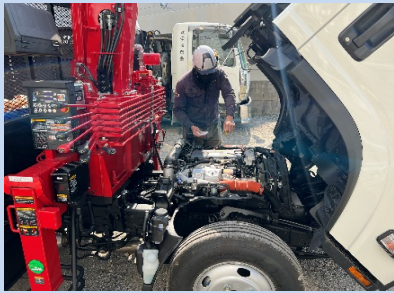
②車輛及び重機類の始業前点検を実施しています。

<事務所や工場内の節電>

③空調は、必要な時間に限定して使いました。

④照明は計画的にLED化しています。

⑤使用しない箇所の電気の消灯を徹底しました。



収集運搬車の始業前点検



第一休憩室（LED照明）



事務所倉庫（LED照明）



空調温度管理の写真



昼休みの消灯



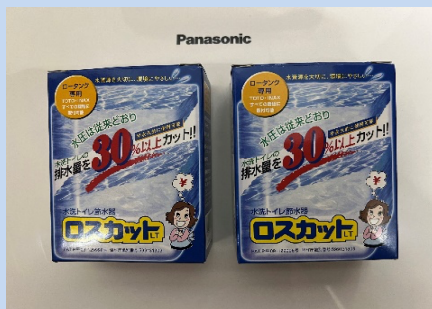
作業場（昼休みの消灯）

2. 水使用量の削減



①節水ポスターや朝礼等で、従業員へ節水を呼びかけました。

②計画的に節水型器具・器材に設備更新を行っています。



トイレの節水



節水ポスター

3. 受託廃棄物のリサイクル率向上



- ①自社回収する廃棄物は、自社で分別作業を行い、リサイクル率向上に努めています。
- ②持ち込まれた廃棄物は、荷下ろし後、種類ごとに分けて数量を確認し、細分別化を徹底しています。



持ち込み廃棄物の分別前



持ち込み廃棄物の再分別化

4. 産業廃棄物排出量の削減



- ①中間処理時に有価物の細分別を徹底しています



有価物の細分化処理作業（その1）



有価物の細分化処理作業（その2）

5. 事務所ごみ排出量の削減



- ①事務所ごみは分別して計量しています。
- ②事務所では両面印刷を徹底しています。
- ③コピー用紙の裏紙使用を徹底しています。



事務所内のゴミ計量

6. グリーン購入の推進



- ①事務用品はできるだけグリーンマーク商品を購入しています。



グリーン購入商品

7. 環境経営目標の実績

- ・当社の過去3カ年の環境負荷実績と、これに基づく2023年度の環境経営目標達成状況は、以下のとおりです。
- ・設定した5項目9目標のうち、2項目4目標で環境経営目標を達成でき、他の3項目5目標は未達成となりましたが、多くが目標達成率90%以上の結果となっています。
- ・このうち、社の最大の環境負荷である二酸化炭素排出量は、総排出量ベースでは目標を僅かに上回りましたが（目標達成率96%）、原単位（売上高当たり）ベースでは排出量が抑えられ（目標達成率102%）、生産性が向上していますので、十分に目標達成可能なレベルにあります。
- ・本業目標である「受託廃棄物のリサイクル率向上」については、目標達成率100%で目標を達成できました。
- ・再生処理後の産業廃棄物排出量（製品歩留まり）は、目標達成率97%でわずかに目標を下回りましたが、今後は環境意識を高め、従業員が一丸となって取組を徹底し努めていきます。
- ・また、ガソリン使用量については、社用車の増車に伴い2カ年連続して目標を大きく上回りましたので、次年度は目標値そのものの見直しを行います。

■当社の過去3カ年環境負荷実績

年度：4月～翌年3月

該当項目		単位	2021年度	2022年度	2023年度
エネルギー使用量	購入電力	kWh	97,096	113,931	94,351
	ガソリン	L	433	2,444	2,721
	軽油	L	23,438	23,780	23,528
二酸化炭素排出量		kg-CO ₂	130,024	147,458	133,628
水使用量		m ³	557	582	594
受託した鉄・非鉄金属の処理量	収集運搬量	t	2,522	2,426	2,565
	再生処理量	t	2,880	2,854	2,895
	うち再資源化等量	t	2,742	2,718	2,757
	再生処理後の産業廃棄物排出量	t	138	136	139
一般廃棄物総排出量		kg	700	423	364
売上高		百万円	504	517	535
従業員数		人	14	14	15

■環境経営目標の達成状況

年度：4月～翌年3月

環境経営目標	単 位	2023年度		目標達成率	目標達成判定
		目標	実績		
1.二酸化炭素排出量の削減	kg-CO ₂	128,724	133,628	96%	△
	kg-CO ₂ /百万円 (売上高当たり)	255	250	102%	○
(1) 電気使用量の削減	kWh	96,125	94,351	102%	○
(2) ガソリン使用量の削減	L	428	2,721	16%	×
(3) 軽油使用量の削減	L	23,204	23,528	99%	△
2.水使用量の削減	m ³ /人 (従業員1人当たり)	39.4	39.6	99%	△
3.受託廃棄物のリサイクル率向上	% (リサイクル率)	95	95	100%	○
4.産業廃棄物排出量の削減	% (産廃排出率)	4.7	4.9	97%	△
5.事務所ごみ排出量の削減	kg/人 (従業員1人当たり)	49.5	14.9	332%	◎

備考) 1.目標達成率の計算 削減目標の場合：目標÷実績×100 増加目標の場合：実績÷目標×100

2.目標達成判定区分 ◎：目標達成率120%以上、○：100%以上120%未満、△：80%以上100%未満、×：80%未満、

－：判定不可

8. 環境経営計画の取組結果とその評価

- 環境経営計画で定めた活動項目について、2023年度の取組結果とその評価は以下のとおりであり、全体としては適切に実施する事が出来ました。

環境経営目標		目標 達成 判定	具体的な取組（活動項目）	実施 状況 判定	評価
1 ・ 二 酸 化 炭 素 排 出 量 の 削 減	(1) 電気使用量の削減	○	①空調は、必要な時間に限定して行う ②使用しない箇所の電気の消灯を徹底する	◎ ◎	・休憩室や事務所内において節電の周知の取組を行った結果、削減目標を達成できました。
	(2) ガソリン使用量の削減 (3) 軽油使用量の削減	ガソリン × 軽油 △	③収集運搬車の急発進、急加速、急ブレーキをしない ④運搬経路を考慮し、収集運搬の効率を高める ⑤駐停車中のエンジンの停止を徹底する ⑥車輦及び重機類の始業前点検を実施する	○ ◎ ◎ ◎	
	2.水使用量の削減	△	①節水ポスターや朝礼等で、従業員へ節水を呼びかける	△	手洗いが定着した昨今、来客数の増加もあり手洗いの使用頻度も増えている。夏場だと散水でも水の使用する。安全にも配慮しながら引き続き節水の呼びかけをする。
	3.受託廃棄物のリサイクル率向上	○	①持ち込まれた廃棄物の細分別化を徹底する	◎	・有価物の細分別化の徹底に取組みました。
	4.産業廃棄物排出量の削減	△	①中間処理時に有価物の細分別を徹底する	○	・中間処理時に有価物の細分別を徹底しました。引き続き有価物の細分別を行い、産業廃棄物排出量をなるべく減らせるように取組みます。
	5.事務所ごみ排出量の削減	◎	①事務所から排出されるごみの計量を行う ②お客様用のコップをプラスチック製から紙に変更 ③コピー用紙の裏紙使用を徹底する	◎ ◎ ○	・リサイクル、両面コピーを徹底しました。引き続き廃棄物削減に取り組めます。 ・お客様用のコップをプラスチック製から紙製に変え、プラスチック製品の排出を減らすことが出来ました。
	6.グリーン購入の推進	-	①グリーンマーク商品をできるだけ購入する	○	・事務用品の購入に際してグリーン購入対象商品を優先的に選択しました。

備考) 目標達成判定区分 ◎：目標達成率120%以上、○：100%以上120%未満、△：80%以上100%未満、×：80%未満、-：判定不可

実施状況判定区分 ◎：よく実施できた（定着） ○：実施できている △：ほぼ実施できている ×：実施できていない -：判定不可

9.次年度の計画

(1) 環境経営目標

- 2023年度の環境経営目標達成状況は、5項目9目標中2項目4目標で達成でき、残りの項目もガソリン使用量を除いて目標達成率が90%以上あり、今後の取組如何では十分達成可能なレベルにありました。

そこで、次年度の目標は当初の計画通り、2024年度の目標をそのまま適用することとしました。

なお、ガソリン使用量については、社用車の増車により目標値との乖離が大きいため、2022年度と2023年度実績平均値を基準に、次年度からの目標を再設定しました。

年度：4月～翌3月

環境経営目標	単 位	基準年	中長期目標			
		2021年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度
1.二酸化炭素排出量の削減	kg-CO ₂	130,024	127,424 (1%削減)	126,123 (2%削減)	124,823 (3%削減)	123,523 (4%削減)
	kg-CO ₂ /百万円 (売上高当たり)	258	253 (1%削減)	250 (2%削減)	248 (3%削減)	245 (4%削減)
	(1) 電気使用量の削減	97,096	95,154 (1%削減)	94,183 (2%削減)	93,212 (3%削減)	92,241 (4%削減)
	(2) ガソリン使用量の削減	※2,583	— -	2,531 (2%削減)	2,506 (3%削減)	2,480 (4%削減)
	(3) 軽油使用量の削減	23,438	22,969 (1%削減)	22,735 (2%削減)	22,500 (3%削減)	22,266 (4%削減)
2.水使用量の削減	m ³ /人 (従業員1人当たり)	39.8	39.0 (1%削減)	38.6 (2%削減)	38.2 (3%削減)	37.8 (4%削減)
3.受託廃棄物のリサイクル率向上	% (リサイクル率)	95	95以上	95以上	95以上	95以上
4. 産業廃棄物排出量の削減	% (産廃排出率)	4.79	4.70 (1%削減)	4.65 (2%削減)	4.60 (3%削減)	4.55 (4%削減)
5. 事務所ごみ排出量の削減	kg/人 (従業員1人当たり)	50.0	49.0 (1%削減)	48.5 (2%削減)	48.0 (3%削減)	47.5 (4%削減)

備考) ・購入電力の排出係数は、沖縄電力(株)2021年度調整後排出係数0.706kg-CO₂/kWhを使用した。

- ・ () 内の数値は、基準年(2021年度)の実績値 に対する削減率を示す。
- ・ 化学物質は使用していないので、目標から除外した。
- ・ ※ガソリン使用量の基準年実績値は、2022年度と2023年度の実績平均値で示した。

(基準年算出方法)

①二酸化炭素排出量目標=二酸化炭素排出量÷売上高

→130,023kg-CO₂÷504百万円

②水使用量の削減=水使用量÷従業員数

→557m³÷14人

③受託廃棄物のリサイクル率向上=(再資源量÷中間処理量)×100

→(2,742t÷2,880t)×100

④産業廃棄物排出量の削減=(産業廃棄物排出量÷中間処理量)×100

→(138t÷2,880t)×100

⑤事務所ごみ排出量目標=事務所ごみ÷従業員数

→700kg÷14人

(2) 環境経営計画

- 次年度の環境経営計画は以下のとおりであり、基本的には本年度の取組を継続しますが、目標未達となった項目については、取組の周知を徹底して、全社員で取組を強化していきます。

環境経営目標		具体的な取組（活動項目）	担当者	スケジュール
1.二酸化炭素排出量の削減	(1) 電気使用量の削減	①空調は、必要な時間に限定して行う	上原裕栄	冷房期：7～9月 暖房期：11～3月
		②使用しない箇所の電気の消灯を徹底する		通年
	(2) ガソリン使用量の削減	③収集運搬車の急発進、急加速、急ブレーキをしない	伊禮 鉄平	通年
		④運搬経路を考慮し、収集運搬の効率を高める		通年
		⑤駐停車中のエンジンの停止を徹底する		通年
		⑥車両及び重機類の始業前点検を実施する		通年
(3) 軽油使用量の削減				
2.水使用量の削減		①節水ポスターや朝礼等で、従業員へ節水を呼びかける	比嘉 由華	通年
3.受託廃棄物のリサイクル率向上		①持ち込まれた廃棄物の細分別化を徹底する	砂川 学	通年
4. 産業廃棄物排出量の削減		①顧客に対して買取物の分別指導を行う	砂川 学	通年
		②中間処理時に有価物の細分別を徹底する		通年
5. 事務所ごみ排出量の削減		①事務所から排出されるごみの計量を行う	伊禮 鉄平	通年
		②両面印刷を徹底する		通年
		③コピー用紙の裏紙使用を徹底する		通年
6. グリーン購入の推進		①グリーンマーク商品をできるだけ購入する	比嘉 由華	通年

10. 環境関連法規への違反、訴訟等の有無

- ・ 当社の事業活動に適用される主な環境関連法規等は、以下のとおりです。
- ・ 2023年度事業活動終了後に法令遵守状況を確認・評価した結果、違反はありませんでした。
- ・ また、関係機関等からの指摘の指摘、利害関係者からの苦情、訴訟も過去3年間ありませんでした。

	主な適用法規	遵守すべき要求事項	遵守評価
1	廃棄物の処理及び清掃に関する法律	産業廃棄物収集運搬業の許可 マニフェストの保管	○
2	沖縄県生活環境保全条例	事業活動に伴って生じる環境負荷の低減 県が実施する、生活環境保全施策に協力	○
3	消防法	消火器の点検 指定可燃物貯蔵・取り扱い届出、表示	○
4	グリーン購入法	物品購入に際し、出来るだけ環境物品等を選択	○
5	騒音規制法	特定施設の届出 規制基準遵守義務	○
6	振動規制法	特定施設の届出 規制基準遵守義務	○
7	オフロード法	特定特殊自動車の基準適合表の表示 特定特殊自動車の適正燃料の使用、点検整備の実施	○
8	自動車リサイクル法	使用済自動車の引渡義務	—
9	家電リサイクル法	製品廃棄の際の適正な引渡、処理料金の支払い	—

備考) 遵守評価区分 ○：遵守、×：不遵守、—：該当なし

確認日：2024年3月31日
作成者：比嘉 由華

11. 代表者による全体の評価と見直し

- 2023年度における代表者による取組状況の全体評価と見直し結果は、以下のとおりです。

見直し項目	評価と見直し・指示
環境経営方針	2023年度も行動指針に沿って取り組みました。 - 環境経営方針の内容と行動指針の変更はありません。
環境経営目標	- 二酸化炭素排出量の削減目標には達成できていない。 ①節電への効果がみられ使用量・金額ともに減少している。 ②ガソリンは2022年度に1台社用車が増え、使用量が増加しているため、今後使用実態にあった目標設定が必要である。 ③軽油については多少であるが減っている。少しずつであるがエコドライブ等の意識が浸透してきているのかもしれないと思われる。 - 水使用量も手洗いが定着した昨今、来客数の増加もあり数値として減らすのは難しいが節水を呼びかける。 - お客様へは細分化への協力・周知を依頼しながら産業廃棄物の削減に努める。 - 事務所ゴミの削減は取組みが周知し削減できた。 2023年度は来客飲水用コップをプラスチック製から紙製に移行しプラスチック製品の削減に努めた。 - スーパーなどで買い物する際はエコバックを使うなど、業績には直接反映されないが間接的な取組みも増やしたい。
環境経営計画	- 環境経営計画に沿って、環境への取組を積極的に実行しています。 - 二酸化炭素排出量、産業廃棄物排出量の削減目標が未達となっていたので、この取組を追加して強化することを指示しました。その他の活動項目は、変更せず現行のままとしました。
実施体制	変更なし

2024年4月30日 火曜日
株式会社 伊禮商会
代表取締役 伊禮 栄